



### 3月8日は「国際女性の日」です

「国際女性の日」は、国際婦人年である1975年3月8日に国連で提唱され、その後、1977年の国連総会で議決されました。

男女共同参画は、女性だけの問題ではなく、全ての人の問題です。ひとりひとりが常に自身の言動を振り返り、問いかけることが大切です。

世界中には、女性であるというだけで差別されたり、権利を奪われて苦しんでいる人がいます。

ひとりひとりが自分や身近な大切な人、そして世界中の誰かのために思いをはせ、応援する日にしましょう。

※3月8日は「ミモザの日」とも呼ばれ、黄色いミモザの花がシンボルとして親しまれています。



### 男女共同参画啓発 DVD 貸出事業

人権啓発課では、男女共同参画などに関する啓発 DVD を所蔵しています。家庭や職場、地域社会などそれぞれの立場で男女共同参画について理解を深めていただくため、個人・団体を問わず貸し出しを行っていますのでお気軽にご利用ください。



#### 利用方法

貸出数 2点以内  
貸出期間 14日以内

#### 利用方法

本人確認できるものを持参し、人権啓発課で手続きしてください。

詳細はこちら



## みんなで学ぼうじんけん

生涯学習課 ☎32-1934

ひろみち 本田博通地域人権教育指導員が学校で働いていた経験などから「じんけん」の今をお伝えします



### 子どもの目線①

1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」は、子どもの保護や配慮を定めていると同時に、「権利の主体」である子どもを、おとなと同様にひとりの人間としてとらえます。

このお話は2年生の教室、浜辺の小学校でのことです。

ゆうじくんは帰りの会で、友だちから反省を求められることが多かった。わたしが担任してから、連日のように追及されていた。

わたしはその度に彼に言って聞かせたが届かず、同じことを繰り返した。そして、独りぼっちだった。

「夜、一人だったけん、となにに行っとった。」「めざましのでんちが、とれとったけん、起きれんだった。」と言う。

授業中も眠ってしまふ。学校での行動は不安定な生活からきているのだろうと考えていたが、保護者とじっくり話す機会が、先延ばしにしていた。

11月に入って、「おうちの人といっしょにしたこと」をテーマに作文の授業をした。その頃、

ゆうじくんが日記に「おとうさんのとらくにのてみたらすこいたかたよ」と書いていたので、声をかけるとたくさん話し出した。それを整理してあげると、彼は原稿用紙3枚に一気に書き上げた。

お母さんといっしょに晩ご飯を作ったこと、お父さんの長距離輸送トラックに乗せてもらったこと。二人の妹の姿も入れ、生き生きとした会話の文だった。その作文を手にはわたしは迎えに来たお母さんに話しかけた。

わたしは学校での様子から家庭がその機能を失っているのではないかと思っていたと正直に話した。でも作文を読んで、そうではなかったことを知り話を続けた。

「料理の手伝いも出来るんですね。」と言うと、お母さんは、「ゆうじ専用の小さい包丁を持たせています。よく手伝ってくれるから。」とうれしそうだった。

しかし2月に入って、ゆうじくんは「くさい」と友だちに言われると訴えた。複数の子どもたちから、彼にだけ何度も繰り返しされる言葉だった。

続きはウキカラ5月号で



消費者トラブル  
**注意報**  
商工観光課 ☎32-1604

### 長期契約のトラブルに注意！

#### 事例

長期間の脱毛エステやハウスクリーニングの契約で、事業所の閉鎖や中途解約などでトラブルとなる相談が多く寄せられます。長期間にわたりサービスが受けられるものは、契約対象となる有償部分の内容と、対象とならない無償部分の内容に分かれていることがあります。

#### ！アドバイス

- ・契約書面の有償の内容・期間・回数・単価・中途解約の清算ルールを確認しましょう。
- ・支払いが続く期間、回数も意識しましょう。
- ・長期契約の場合、できるだけ都度払いができるコースや店舗を選択しましょう。
- ・長期間にわたる契約は解約する場合を想定して慎重にしましょう。

相談は 宇城市消費生活センター ☎33-8277 へ

## 郷の記憶をたどる

文化スポーツ課 ☎32-1954

私たちが暮らす宇城市の郷土にまつわるさまざまな文化の魅力を発信します

### 郷土資料館



開館時間 10時～17時  
休館日 月・木曜(祝日の場合はその翌日)  
住所 豊野町糸石3818 ☎45-2102

### 響ヶ原古戦場に建つ相良堂(相良神社)

天正9(1581)年12月2日、相良義陽<sup>さがよしひ</sup>と甲斐宗運<sup>かい そううん</sup>の軍勢が響ヶ原古戦場で戦いました。阿蘇氏を討とうとする島津氏に命じられた義陽は、その年の12月1日、八代<sup>やしろ</sup>を出発し御船に向かいました。

はじめに娑婆神峠<sup>さばがみとうげ</sup>(豊野町と小川町の境)に陣をおいた義陽は、家臣たちに美里町<sup>あかみね</sup>の赤峯尾城、甲佐町<sup>こうさ</sup>の豊内城を攻めさせ、相良軍が勝利し敵の大將を打ち取りました。

翌日、義陽は豊野町の響ヶ原に陣を進め、その夜、兵をねぎらう宴を開いていました。甲斐宗運はその隙をみて、義陽の陣地へ攻め込みました。不意を突かれた相良軍は、大將の義陽をはじめ多くの戦死者を出しました。(勇志七十余、雑兵二百余人)

戦場となった響ヶ原には、義陽をはじめ戦で死んだたくさんの兵士の魂を弔うため供養碑(相良堂)が建てられました。

2人はもともと盟友で、領土不可侵の約束を交わしていたにも関わらず、戦わざるを得なかったことから、義陽は悲劇の武将として伝えられ、古戦場も相良神社として地域で守られています。

言い伝えによれば、戦のあった12月2日の夜に響ヶ原を通ると、馬の蹄<sup>ひづめ</sup>の音や刀の切りあう音に交じり、多数の兵士の勇ましい叫び声が聞こえると言われています。



相良堂(相良神社)



戦場となった響ヶ原古戦場

詳細はこちら▶

